

令和 6 年度高知県食の安全・安心推進審議会 分科会報告
「災害時の食事と衛生」

日時：令和 6 年 11 月 25 日 14:00～15:00

場所：高知県保健衛生総合庁舎 1 階大会議室

参加者：委員 4 名（久委員（座長）、佐竹委員、白石委員、田中委員）

幹事課：薬務衛生課

話題提供

【薬務衛生課】

はじめにガイドラインをもとに県の体制について説明し、災害時の食事と衛生について話題提供。

主な質疑応答及び意見交換

・皿にサランラップやアルミホイルを敷いて使用したらよいというのをテレビで見て、県の方でも備蓄品目のリストに追加してはどうか。

・エリアによって被害想定規模が異なるので、備蓄や避難所の有り様も地域に合わせていく必要がある。それは食事だけではないが、住民も行政がなんとかしてくれるという意識が強いように感じる。少なくとも、備蓄のように自分でできることについては自らで備えておくように、県としてもっと啓発していくのはどうか。

・ローリングストックの良いところは、食べたら補充しなければいけないという意識を持てること。何かのきっかけで慌てて購入し、気づけば期限が切れているということを防ぐ。スーパー等、日常的に人が来る場所で啓発していくのが有用ではないか。

・南海トラフ地震臨時情報が発表された際に、水の注文が相次いで欠品が出た。逆に言うと、普段から用意できていないことが現れているのではないか。

・ローリングストックの例を見ていると、備蓄として置いているわけではないが、自宅にあるものが多く、それほど難しくないのではないかと思えた。

・高知県では備蓄日数の目安を示しているのか。

→最低 3 日だが、県内の地理的状況から 1 週間分程度はあった方がよい。

・寸断される可能性の高い地域についても、一律の見解なのか、市町村による濃淡はあるのか。

→当課としてはお答えできない。危機管理の方で防災倉庫等の管理を行っているが、基本的に避難所の設置等をはじめ、市町村の判断に委ねられている。

- ・地区の避難訓練に参加したが、人集めに苦勞しており、スーパー等と連携したり工夫を求められる。運営側の世代交代もできず、自分事として捉えること、若い世代の参加が必要だ。

- ・備蓄してでも取り出せないと困るので、保管場所も大切だ。また、地区の防災倉庫の管理が個人になっていたりして、期限管理等の責任がその人にのしかかってくるのが問題になっていると聞く。

- ・パッキングについて、テレビ等で紹介したり、目にふれる機会を作してほしい。

- ・レシピをスーパー等に置いてもらうのも有効ではないか。

- ・実際に作ってみることが大事だと思った。またこのリーフレットをしてみる。

- ・ペットの扱いに苦慮すると聞いたことがある。

→当課の動物班においても、同行避難ができるように、しつけ教室を行っている。

- ・JDA・DAT のことも初めて聞いた。この方たちは普段仕事をされていると思うが、こういったときにはこちらの業務を優先するのか。

→栄養士会でスタッフ研修を行っており、要請があった場合に登録をしている者がその地域に派遣される形になる。